



人間性豊かな地域を

*第3分科会

第三分科会では、「みんなで支え合い、人間性豊かな地域をつくるために果たす婦人の役割はいかにあればよいか」のテーマで、岡本正明さん（村民生委員）からボランティア活動のあり方を、中原ミヨさん（婦人会長）からは、婦人会の活動を例に、婦人の社会参加という視点から発表がありました。協議では、(学習)したい人がいつでも、どこでもその方法などについてアドバイスを受けるこ

とができる教育相談の窓口の設置を検討してほしい。また、いろいろなことをやる、というのではなく、リサイクルや新生活運動などに焦点をしばって婦人の力を結集できないものか、という意見が出され、ボランティア活動については、地についた活動の定着化を図り、住民にその主旨の理解を深めてもらう活動を展開し、愛のひと声運動など今からでもすぐ実践できる運動を進めてほしい。そして経験を教え合う社会づくりのために、ボランティア登録制度を導入していけないものだろうか……という提言もありました。

*記念講演

豊かな村づくりと生涯教育

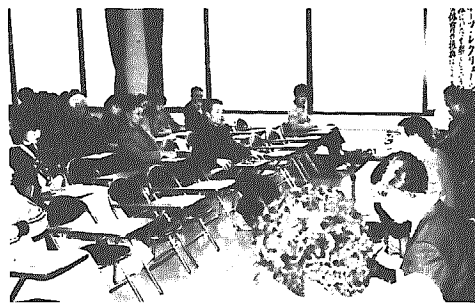


新潟大学教育学部教授 吉川 弘さん

現代社会をその特徴をとらえて情報化社会とか、高齢化社会とか、学歴社会とかいいます。このようないい方の一つに最近学習社会といういい方をよく耳にすることと思います。この言葉を最初に使ったのはR・M・ハッチンスです。その意味するところは「人々が生涯を通じて学習し続けることが可能な社会であり、この人々の生涯を通じての自己向上の努力の結果が適正に評価される社会」のことです。

(中略)

今後ますます余暇時間が増加するもの



と思います。この余暇をいかに有効に過ごすか、ということに社会の関心が集まります。余暇社会といってもそれは余暇ばかりの社会ではありません。余暇が重要視される社会のことで、そこには仕事もあれば家事・育児もあります。こうなると、学習の範囲は実に広くなり、社会の変化を考慮に入れると一生学び続けても学び足りません。このような一生を通じて人々が学び続けられる社会、そしてそのことを正当にする社会……学習社会をこの地に実現しようではありませんか。

面から、それぞれ段階ごとに指導や助言を与えてくれる体制がないと、なかなかうまくいかない。また、「高齢者のスポーツとして盛んなゲートボール。冬場も気軽に楽しめるよう、室内競技場・村民体育館等の使用方法を改善してほしいが……」などの意見が出されました。スポーツは年代によって特定されるものではないので、それぞれの体力や趣味に応じていろいろなものを気軽に楽しめるよう、行政も住民も考えていかなければ……と結ばれました。

第二分科会では、「スポーツ・レクリエーションを生涯にわたって楽しむという観点から、社会体育の振興はどうあればよいか」というテーマで、発表者の佐藤満さんが体育指導員という立場から、仲間づくりを中心に社会体育の振興を考え、そのための指導体制のあり方などについて、また、平山勝也さん（瀨小学校教頭）からは、学社連携の社会体育のあるべき方向についての提起が行われました。協議では、「社会体育の推進は、世話役―実践―管理という

*第2分科会

社会体育の振興は…



人づくり・村づくり

*第1分科会

第一分科会では、「人づくり、地域づくりということから、望ましい生涯教育の方法はどうあればよいか」というテーマで協議が行われました。広野孝二さん（和納小学校PTA会長）から、PTA活動の経験を通して社会教育の意義やその活動を生かすための提言を、小林清司さん（西船越区長）から西船越地区が実践している手づくりむら事業についての発表が行われました。協議を集約すると、社会教育関係団体の相互連携を図り、とくに家庭教育という面を焦点化し、研修会など話し合いの機会を設定することも大切だ。また、いま話題の地域おこし、村おこし運動については、「なにをしたらよいか、と地域民に呼びかけることも一つの方法かと思うが、村が地域に足を運び、真剣に掘りおこし、探ることも必要だろう」と、その一手段として「行政座談会」の提唱などがありテーマにそって活発な意見交換が展開されました。

生涯教育推進大会から

未来を設計する

生涯学習って、なに…

共通の趣味を持つ仲間がほしい…スポーツを楽しみたい…料理を習いたい…写真を始めようかな…ボランティア活動に参加したいなど——仕事以外になにか熱中できるものを、あるいは自分の特技や能力を生かせる場を、と考えている人も多いはず…

そんな潜在する意識の解消を図るため、新村誕生25周年を記念して、「未来を設計するために」と、県内でも初めてといわれる「生涯教育推進大会」が先月17日、公民館で開かれました。あいにくの雨模様にもかかわらず約370人が参加。三つの分科会に分かれ熱心な協議が展開されました。

今号では、全体会で発表された分科会報告（要約）を紹介します。そして、学ぶことの大切さ、参加することのすばらしさをご家庭で話し合っていたければ幸いです。

いま、なぜ生涯教育なのか

*基調講演



元新潟市生涯教育研究室 片野二郎さん

生涯教育とはどういうことなのか——中央教育審議会の報告によれば、「国民一人ひとりが充実した人生を送ることを目指して生涯にわたって行う学習（生涯学習）を助けるために教育制度全体が、その上に打ち立てられるべき基本的な理念である」という。具体的

には、昔からいわれている「人間は一生が勉強だ」「修業は生涯」という心に通じるものであり、みんなが学習の大切さを考え、学習できる体制をつくらなければいけない、ということですね。それではなぜ、いま、生涯学習が重要視されているのか。それは、世の中の急速な進歩や激しい変化に応じて生きていくため、知識の陳腐化を補うために必要だと考えます。この学習にはいろいろな形態があります。学習だからといってとくに構える必要はなく、知らないうちにそのことが学習になっている場合もあります。とにかく、身近なものから、なにか関心をもっていくということから始めたいものです。